「感染しない」「感染させない」を合言葉に

コロナに負けないぞ！

有田史談会　月例通信
事務局　中村貞光
090-4740-4752

坂井会長からのメッセージ♪

■　皆さんお元気ですか？　急に真夏日から真冬に突入しました。　インフルエンザの予防接種はされましたか？　風邪は万病の元、ご用心。　11 月に入りますと、泉山の樹齢 1000 年の大イチョウの黄金の輝きと紅葉で有田の一番美しい時を迎えます。他県から沢山の来訪者が期待されます。　迎える側としては、マスク着用や検温、アルコールによる手の消毒等、基本的なコロナ対策を行い万全を期したいものです。

秋は読書の季節、青春時代にタイムスリップして「論語」の音読はいかがでしょうか。　深川製磁に勤めていた昭和 63 年 11 月に、安原美穂検事総長が来社されたおり、深川社長が花瓶に揮毫をお願いしたところ「行不由径」とご染筆頂きました。

（　左　安原美穂氏　中　樋渡利秋氏　右　土肥孝治氏　）

長い間、意味が理解できませんでしたが、たまたま朗唱漢詩漢文（東洋館出版社）を見ていたら、出典は「論語」で「行くに径に由らず」-ゆくにこみちによらず- と読み、意味は「往来を行くにも近道や抜け道などは通らず常に大きな道を歩くこと。つまり邪道を避け常に公明正大で大道を歩むこと」とありました。安原美穂検事総長のお姿や業績から、「行不由径」の道を堂々と歩まれたと拝察します。写真中央の「忠恕」は平成 21 年 6 月に来社された樋渡利秋検事総長のご染筆で、出典は「論語」です。年配の方は「論語」全編を勉強され、消化して自分の行動に生かしてこられたようです。大先輩に見習い「論語」の音読に皆様も挑戦してみませんか。

坂井勝也

事務局の独り言(￣▽￣;)

■　観光ガイドの岩崎数馬さんが「有田焼と言えば白でも赤でもなく、まずは『黒』と覚えて下さい」との西日本新聞の記事を読んだ。「有田では山辺田周辺で本格的な焼き物生産が始まり、李参平の陶石発見以降生産の中心が白川へ移り、赤絵付けの技術の成立で内山に職人が集まる赤絵町が形成された。黒から白、そして赤と 3 色で有田焼の変遷が理解できます」「黒・白・赤」はなるほど面白い切り口だなと思った。

観光ガイドも我々が始めた時に比べると様変わりし、新しいガイド案内に変化している。有田に来られる観光客をいかに喜ばせるか、新しいストーリーを作りガイド案内を楽しむ姿に少々嫉妬した。有田に帰省した直後に商工会議所で尾﨑葉子さんの「有田の語り部講座」を聞いたことで、数年後の NPO アリタ・ガイド・クラブ設立に繋がったことを昨日のことのように思い出した。

2004 年 2 月に帰省し、翌年 3 月、NPO 有田町どっとこむ誕生を機に観光ガイド講座を立ち上げ、自ら先頭に立ち観光ガイドをした日々が懐かしく思い出される。2009 年 4 月、ガイド育成に特化した NPO アリタ・ガイド・クラブを設立、大橋先生を理事長にお迎えし、4 期 4 年間有田観光協会設立直後まで突っ走った。振り返ると帰省してからの 10 年間はまともに仕事もせず、母の面倒は家内任せでガイド育成に奔走して家内には随分苦労をかけたが、今では懐かしい思い出になっている。

当時のホームページ TOP には山口信行さんと伊良皆さんの元気な姿が！懐かしい一コマです。

有田に帰省してまもなく 18 年になるが町の景色は変わらない。現在は旧田代家西洋館の運営に携わり、来館者へガイド案内をすることが唯一の楽しみになっている。来館者には短い時間で有田を楽しんでもらえるよう私なりの有田ストーリーを心掛けているが、コロナ禍でガイド案内が出来ないのは寂しい。いつもの日常が一日でも早く戻ることを願うばかりだ。

黒髪山伝説大蛇退治と地名

＜第 3 回＞　　栗山愼悟

◎万寿姫

白川の池に潜む大蛇を誘き出すために、美しい娘をおとりにしようと決まり娘を募集することになった。

そのころ、高瀬に万寿姫（１６才））と小太郎（１１才）の姉弟と病の母が住んでいた。万寿姫の父は松尾弾正之助吉道といい、後藤家の優秀な家臣であったが、奸臣の讒言によって改易され、高瀬の里でひっそりと暮らしていたが、失意のうちに病のため亡くなってしまった。ある日、大蛇退治のおとりの募集を知った万寿姫は、もう一度お家を再興しようと、反対する母と弟小太郎を説得しておとりになると名乗り出た。

万寿観音堂　万寿姫が祀られている。

【高瀬】こうぜ。（現武雄市西川登町）

万寿姫が家族と住んでいた。

【犬走】いぬばしり。（山内町）

【小越】こごえ。（山内町）

万寿姫は高瀬から犬走を通り小越を越えて白川の池へ向かう。

おとりになる万寿姫は、母や弟小太郎との別れのつらさに小声で泣いた。

おとりになる万寿姫を追いかけた愛犬は道を間違えて会うことができず小声で鳴いた。

大蛇退治を知らせる者が犬のように走ったが、次の谷で息が切れて口が利けなくなった。

『神六山より流れる水は勢いよく去走り（いにはしり）する。故に転じて犬走となる』（中通村郷土史）越は峠で、小越は小さな峠の意であろう。

松尾神社　小太郎が合祀されている。

【踊瀬】おどりせ。（山内町永尾駅付近）

万寿姫の一行が踊りながら通ったので踊瀬という。神六山を源流とする鳥海川は、犬走を北上して永尾駅付近で直角に曲がり西流する。直角に曲がる時に川は踊り狂ったように逆巻く、よって踊瀬という。

【鬢毛川】びんげがわ。（有田町）

泉山と中樽の境となる川。鬢毛川橋が架かる。おとりとなる万寿姫が、この川の清らかな流れに姿を映し、化粧を直し、髪をすき、鬢のほつれを直し、容姿を整えて白川の池に向かった。また、黒髪山の麓なので『鬢毛』だともいわれている。

鬢毛川と鬢毛川橋　川を境にして写真左側を泉山。右側を中樽。

大蛇が退治されると、万寿姫はその勇気を褒めたたえられ、高宗の家臣西岳壹岐守に嫁せられた。弟小太郎は、士分に取りたてられ松尾弾正之助吉春と改め、父吉道の領地であった高瀬の村が与えられた。

万寿姫は高瀬の里の万寿観音堂に祀られ、小太郎は酒造りの神様である松尾神社に合祀されている。

あとがき

■　会報 7 月増刊号の発行から 3 ヵ月が経ちました。次回の会報は 2022 年 1 月になります。日頃の研究成果を発表頂くことになりますが、準備は如何でしょうか？あんまりプレッシャーを掛けないで！と皆さんの声が聞こえてきそうです(笑)　負担に感じることなく楽しみながらご投稿願います。　今月も栗山さんの連載で充実の史談会通信を発行出来ました。今後とも宜しくお願いいたします。　毎回単調になりかねない史談会通信ではありますが何とか継続できています。　楽しい話題などありましたら事務局までご連絡をお待ちしています。